



輝け 未来へ 中番校

No one will be left behind



「出店活動」楽しめました！明日から 11 月。学びの充実を!!

— Change (変革), Challenge (挑戦), Continue (継続) —

今日で 10 月も終わりです。そして、11 月 7 日 (月) には早くも「立冬 (りっとう)」を迎えます。本当に季節は廻り、駆け抜けていきます。

さて、先週の 28 日 (金)、中番小学校恒例の「出店 (でみせ) 活動」を実施しました。なかよし班で、どんなお店を出そうかと相談し、色々と趣向を凝らした様々なお店が出来上がっていました。この活動は、私が中番小学校に来た時には既に実施されており、この中番小学校の伝統的教育活動といえると思います。コロナ禍以前は、保護者の方、地域の方にも多数ご参加をいただき、子供達と一緒にしてお店を回っていただき、子供達との交流を楽しんでいただいております。今は残念ながら、ご参加は叶っておりませんので寂しい感じがします。この活動を見ていて大変うれしいことがあります。それは、子供達が考え出す遊び、ゲーム、アトラクションが大変シンプルだということです。パズル、ボーリング、お絵かき、クイズ、魚釣り、等々、様々です。自分達でルールを考え、オリジナルなものを考えていきます。そのルールが、非常に単純、簡単、誰でもできるものなのです。確かに現代の子供達のことです。家では、高性能のゲーム機に触れていることと思います。ビジュアル的であり、刺激も強い、ルールも複雑かもしれません。しかし、この出店活動では、子供達が直に書いたもの、描いたものが、此处かしこに溢れています。勿論、もっと見やすいように大きな字で書いた方がいいものや仕上げが乱雑なものがあったりもします。しかし、それらを踏まえて、それらを含めて、子供達のお手製のものが溢れていることは大変素晴らしいことだと考えています。手作りのものがもつ豊かな風合い、優しさ、作成者の個性、そういったものがお

店に溶け込んでいます。お店に行くのも交流学年のペアで回ります。当然、上級生は下級生の面倒を見るという“お仕事”がついてきます。自分が楽しみたいという気持ちと、相手を楽しみたいという気持ち、行きたいお店が違うこともあるでしょう。より楽しめるように助けてあげないといけない場合も起こってくるでしょう。そんな状況の中、子供達は活動しています。また、お客さんとしてお店を回るだけでなく、お店番をすることも大切な“お仕事”です。お客様に説明すること、得点、点数計算すること、順位を決めること等、仕事は沢山あり、大変、忙しいものです。でも、活動中の子供達の様子を見てみると、笑顔が一杯です。そこら中に笑顔が溢れています。できてもできなくても楽しそうです。順番を待ちながら、後ろから覗き見る姿、今か今かとワクワクドキドキしている表情、一生懸命クイズの答えを考えている姿、何とも可愛いものです。これらの活動を通して、子供達は、お客様に喜んでもらえるお店を作ること、楽しんでもらえるためにどんなことをすればいいのか等を考えます。また、色々なお店に出かけることで多くの児童との交流を重ねていきます。この「出店活動」を終えた子供達は、また一步、歩みを進め、一つ階段を上りました。

中番小学校では、このなかよし班活動が、学校生活の根幹に位置づいています。学校生活の基盤にあるといってもよいかと思います。児童数が少ない、規模が小さい、そのような学校において、今必要な多様性を求める場合、この異学年交流が非常に大切だと考えています。当然、学校の職員にとっても自分の学級以外の子供達とつながりをもつことは大変、有意義であり、大切なことと考えています。「全児童を、全職員で育てる」という中番小学校の基本理念、教育方針はここにあります。中番小学校ならではの学校の特色を生かす、最大限に生かす、そんな気概をもってこれからも教育活動を進めたいと考えています。中番小学校は、児童にとって、「明日も行きたい！学びたい！学校」を目指し、日々の取り組みを充実させ、共に歩んでいきたいと願っております。